

*****佛事の常識・非常識*****

Q:どの範囲の人にお悔みしますか？A:お悔やみの気持ちがあるなら、表現しましょう。

こういう質問も、「家族葬」という言葉が生まれて後に出て来たように思います。と申しますが、一昔前までは訃報が届くとたいていはお悔みを持って弔問していたと思います。そこに何の疑問もなかったようなのですが、「家族葬」という言葉が生まれて、喪主側がお招きする参列者を絞るようになってきました。するとなんとなく、どの範囲までお悔みしないといけないのかという疑問が芽生えたのではないのでしょうか。従来の葬儀は、「来る者拒まず」というスタイルでした。「村八分」とは、住んでいる地域の掟を破った人にいくら制裁しても、「火事」と「葬儀」の折には協力し合うという意味なので、「葬儀」の際には相互扶助の力学が働いていました。でないと我が家が「火事」や「葬儀」に見舞われたら、周囲の人々に見捨てられたら大変だと重々分かっていたからでもあります。「向こう三軒両隣」仲良く支え合ってみてはいかがでしょうか。これは「平成」という時代をくぐって、現代人に提起された宿題かも知れません。お悔やみの場面では、日頃の思いを伝えることもないことも思えば、少しでもお悔やみの気持ちが生えるなら、積極的に表現してみることをお勧めします。

*****ハッピープレゼントクイズ*****

クイズに答えて景品をゲットしよう！！

正解者の中から抽選で5名様にお花の苗ポッドをプレゼント。

問:「ポーっと生きてんじゃねーよ」の決めゼリフで今人気の右のキャラクターは？次の3つの中から選びなさい。



- ①ミッキーちゃん ②マンバのけんちゃん ③チコちゃん

答えの番号と感想と、住所・氏名をハガキか fax で徳成寺まで送って下さい。

fax の受付は、朝8時～夜9時までとさせていただきます。

〒760-0017 高松市番町 2-13-25 宛て 徳成寺ハッピープレゼントクイズの係まで
ふるってご応募下さい。毎月22日締切 当選者の発表は景品の発送に代えさせていただきます。
先月の答え、①のペイペイでした。100億円は太っ腹でしたね。

*****坊守の月イチブログ*****

華宵のおしゃれ教室

先日、念願の弥生美術館に行って来ました。大正、昭和の女性たちのオシャレの先導者高島華宵と、大正ロマンの代表の竹久夢二の作品が多数所蔵されています。

高島華宵は、はじめは少年少女雑誌や婦人雑誌の挿絵、宣伝ポスター、便箋の表紙などを描いて人気者になり、その後日本画を描くようになりました。彼の描く女性は一枚も同じ着物を着ていません。常に全国の少女たちのファッションリーダーとして美しい女性を描き続けました。それと同時に全国の少女たちの悩み相談にも丁寧に答えています。今時のように男女平等など考えられない時代、女性は女性らしく、オシャレの工夫からマナーややさしいエチケットに関する質問にも事細かく答えていて、これがまた少女の心を驚掴みにしてしまうのですね。

こちらの本は美術館で売っていた一冊。ゆっくりじっくり何度も読み返して楽しんでいます。歳をとっても心は乙女ですよ、オホホホ。



@:かわら版不要の方は恐れ入りますが087-821-6348へご連絡下さい。